



AGULI

Aoyama Gakuin University Library Information

青山学院大学図書館報

特集 青山ブランドを担うあなたへ

No. 69

<http://www.agulin.aoyama.ac.jp/>

Apr. 1, 2005



百科全書

目次

「華氏451度」それは紙が引火する温度 ... 魚住 清彦 ...	2
特集「青山ブランドを担うあなたへ」	4~11
万代記念図書館レファレンスカウンターより	12
図書館紹介	
本館（青山キャンパス）	14
万代記念図書館（相模原キャンパス）	15
図書館広報板	16

特集「青山ブランドを担うあなたへ」

・青学的感性を磨こう	山田美保子 ...	4
・新しい世界観との出会い	小張 敬之 ...	5
・大学図書館とおつきあいの必要性和その仕方 ...	大山 和寿 ...	6
・Culture のすすめ	大道 千穂 ...	7
・真の 隣国人 の意識を育てるために	PODALKO, Petr E. ...	8
・データベースを活用する	内山 義英 ...	10
・真理はあなたがたを自由にする	大島 力 ...	11



「華氏 451 度」それは紙が引火する温度

副学長 魚 住 清 彦

UOZUMI Kiyohiko

「華氏 911 度」それは自由が燃える温度。ブッシュ再選阻止を狙ったマイケル・ムーアの作品だというその題名を聞いたとき、中学時代に読んだ未来科学小説に同じような題名の本があったことを思い出した。その後、マイケル・ムーアは焚書をテーマにしたブラドベリーの名作『華氏 451 度』を念頭に置いて命名したのだと新聞のコラムで知った。

両親が亡くなって実家を引き払う際、古い本の整理を余儀なくされた。そんな中に全 12 冊が揃った最新科学小説全集があった。古本屋に持って行けば、値打ちがあるかもしれないと、持ち帰った本のうちの一冊が『華氏 451 度』である。Ray Bradbury: Fahrenheit 451 (1953) 南井慶二訳、元々社昭和 31 年 6 月 25 日発行、180 円。私が中学 3 年生のときに父が買ってくれたのだが、父が読みたかったのではないかと思う。改めて読み返していくうちに、遠い昔の記憶が蘇ってきた。聖書を隠し持った主人公が火炎放射器を備えたヘリコプターに追跡され、毒針を備えたロボットの機械猟犬に追い詰められるというシーンである。実況中継されるその捕物帖を、世間の人々は壁テレビで固唾をのんで見守っている。

・・・華氏 451 度で紙は引火し燃える。テレビの時代になって書物など読む必要はない。

否、書物を読むことは過去に執着して進歩を妨げるから、百害あって一利がない。書物を隠している者は保守反動分子に相違ない。書物を所有してはならない。書物を隠匿していることが発覚すれば、家屋ごと焼き払い、その所有者を厳罰に処する。ダンテもミルトンもシェークスピアもゲーテも、一切合切灰にされてしまった。それでも進歩主義者達は満足せず、人民が隠れて書物を読んでいないかと絶えず目を光らせている。その監視役が昔はもっぱら消火にあたっていた「消防士」だ。すべての家が耐火構造となって、消防士はかつての消火器に換えて火焰銃を持って書物を焼き尽くす。しかし、ふと老婦人が火焰の中で蔵書のもとから立ち去りかね、ついに焼け死ぬのを見た主人公の消防士モンターグはこの職務に疑問を持ち、火事場から一冊の聖書をこっそりと盗んだ・・・。

年末に図書館から原稿を依頼されて改めてもう一度本を読みかえした。見損ねていた映画の方も、新春に「Fahrenheit 9/11」の DVD を借りてきて鑑賞した。ドキュメンタリーの強さを改めて感じた。写真が真実を写すことは確かであっても、実はその真実が 100 分の 1 秒の瞬間を凍結したものであるのと同様かもしれないと思いながらも、理不尽という思いをさらに強くした。それは、

ちょうど聖書を隠し持った主人公モンターグを取り押さえることができなかった当局が、朝の散歩をしている変わり者を機械猟犬の毒針で刺して、犯人を取り押さえたと言伝する結末に酷似している。

ところで、青山学院大学の図書館の蔵書数は、現在約153万冊。他に約19,000タイトルの学術雑誌を所蔵し、それらは毎年約36,000冊単位で増えている。青山キャンパスの図書館に電動集密書庫が昨年度完成したので、あと3年ぐらいいは収容できる書庫は確保されたが、足りなくなる日はすぐにやってきそう。青山キャンパスの再開発のなかで新しい図書館あるいはメディアセンターが実現されることを願う。図書館では、新聞記事、雑誌、雑誌論文を合わせると数千タイトルを検索できるデータベースを導入しており、全文を入手できる新聞記事や電子ジャーナルも多数ある。2004年度からは、図書館学術情報システム「AURORA 21」に加えて、「iLiswave」も新たに導入され、検索がいっそう便利になっている。理工系の主要学術雑誌は今や電子出版が当たり前となり、オンデマンド出版も、PDA (Personal Digital Assistance) 用の電子文庫もある。紙でできた本は要らなくなりつつあると思いつつも、紙に出力されていないと落ち着かない。蔵書の中には、キリスト教関係の貴重な文献や馬琴自筆の色紙など珍しい資料が数多くある。紙で残っている貴重な文献はデジタル化して、



保存することを一層推進する必要がある。研究を極めようとする、本物を手元に置かないと仕事が進まないという分野もある。そのような図書の充実を図る必要もあるということだ。

『華氏451度』で描かれる未来社会には、現在のインターネットよろしく、どんな情報でも入手できる耳栓や何でも見える壁テレビがある。壁テレビは液晶テレビか、プラズマディスプレイか、もしかしたら最新のSED (Surface Emission Device) かもしれない。機械猟犬には悪用されたAIBOを頭に描いてしまう。

命からがら機械猟犬から逃れた主人公モンターグは手元に聖書はなくなったが、「伝道の書」を頭の中に納めていた。各自が担当する本の内容を記憶して本の復活を意図する集団に出会い仲間入りした。物忘れの激しい私は仲間入りできない話である。

(理工学部教授)

特集

青山ブランドを担うあなたへ

青学的感性を磨こう

山田 美保子

YAMADA Mihoko

初等部から16年通った青山学院で私が学んだ最大のことは「感性」であったと思う。

イイと感じる気持ち、イヤと思うココロ、自分らしくあることの快感、愛、自由。すべて、青学と青学の先生、友人に教えてもらいながら磨いてきたものたちである。だからだろうか。私は、自分の目を見たもの、足で探したことに自信を持っており、青学で築き上げたネットワークや青学のコネクションを大事にしてきたように思う。

そのすべてが、新しく、おしゃれで、センスがあった。これらは青学から貰った宝物であり、私の全てをつくってくれているといっても決して過言ではない。しかし取り分け私に何かの才能があったのではなく、当時、青学で学んでいた全員に、そうした資質があり、それをどこまでも伸ばしてくれる環境が青学にはあった。

卒業生や在校生にミュージシャンや俳優、女優がこんなに多いのも、音楽からCMまでクリエイターが大勢巣立っているのも、青学だからこそ。この学校のブランドがあったからこそなのである。

同級生自慢をしましょうか。ウチの学年には歌舞伎役者も歌手もなぜかいなかったのだけれど、初等部で同じクラスだった龍多美子さん(日本一有名なインポート下着ショップ「リユー・ドゥー・リユー」のオーナー)や国際ジャーナリストの西浦みどりさんは、他校に通っていたらいまの道には進んでいなかったと思う(詳しくは、彼女たちの著書を読んでみてください)。そして大学で隣のクラスだった名取裕子さん

は、学内で行われたコンテスト(それも、先輩の命令で渋々出場)で準優勝したのをきっかけに女優になったので、まさしく、青学に通ってなければいまの彼女はいなかっただろう。

最近の風潮をみていて少し気になることがある。それは、PCの普及である。

実は私は、このような仕事をしているわりには、PCを利用しないほうだ。クリックするだけで無数の情報が得られるというのは便利なことだと思う。しかし、ワープロを覚えたときに漢字の書き取りが苦手になったように、ファクスの普及で出無精になったように、携帯電話やPCメールに慣れっこになって、イザ喋ろうと思ったら咄嗟に言葉が出てこなくなったように……。現代人の機能というのはPCのせいでは明らかに退化しているのである。

恐らく、生まれたときから留守番電話もホームファクスもあったであろういまの学生たちは、生の会話よりも、コミュニケーションツールを介しての会話のほうが得意なのだろう。そして、その感覚はさらに進化し、人間の声から感じ取るよりも、画面から理解するほうがずっと早いように思えるのかもしれない。

ベタベタした人間よりも、温度が低くサラサラしている機械に親しみを覚えてしまうことによって、いったい、どれだけの感覚が鈍り、退化していったのやろと考えると、とても恐ろしい気持ちになる。

クリックした先に足を運ぼう。会ってみよう。見に行こう。「感性」はそこからだ。

(文学部出身 放送作家、コラムニスト)

新しい世界観との出会い

小 張 敬 之

OBARI Hiroyuki

ヨハネの福音書8章32節に、「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」という聖句がある。学問的真理は科学的真理であるが、その源流は神学にあり、科学的真理は信仰的真理にこそその源流があり、学問を通して、「命の真理」を見いだすことが学生時代には重要であろう。

ユビキタスの時代、学生はいつでもどこからでも、サイバー上の情報にアクセスしてインターネットを活用して情報を収集し、PowerPointで資料を作成し、プレゼンテーションができるような技能を身に付け、デジタル化した社会に強い人間になることが要求されている。自分で物事を考え、調べ、発表する訓練をしていくなかで、コンピュータを最大限に利用し、英語を学んでいくことも大切であろう。

ただこれら英語という言葉やコンピュータは、あくまでもコミュニケーションの手段で、「ことばは世界観」であるから、真の国際人の養成には、「科学と神学」のような科目を同時に勉強しながら、相手の世界観、宗教観を理解することが必要である。相手が何を信じて、何の目的で生きているのかを理解しないことには、表面的なコミュニケーションで終わってしまう。

私は、英語教育が成功したかどうかは、世界観が変わったかどうかだと、思っている。というのは私自身、不勉強で心が荒れて、暴走行為をしていた高校時代に、クリスチャンの英語の先生に出会い、米国留学を決意し、英語を学ぶ

過程で、聖書に出会い、新しい世界観に出会ったからである。英語の発音、文法、語用論も勿論大切であるが、その前に自分の世界観、価値観を知り、同時に相手の世界観も理解する、これがないと真のコミュニケーションは図れない。新約聖書、マタイ伝7章12節に「何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。」とあるが、これが、国際コミュニケーションの奥義だと思う。

人間は「Mind, Body, Spirit」から構成されていると考えるなら、青山学院大学の特徴でもある、聖書信仰に基づく教育を通して、人間の生命や存在の意義を理解し、科学的な真理の探究をすることが、大切である。本来教育とは、人を受け入れ、愛するためのものであり、お金や目に見える物質だけに価値を置き、出世競争に勝つ手段を提供するのが、教育ではない。

今後技術はさらに発展していくと思うが、手段と目的を取り違えることなく、人間の生命を大切にできるような、教育と研究を実践していくことが青山学院大学の使命であろう。知識はいずれあせていくが、真理は不変である。

「主を畏れることは知恵の初め。」(箴言1章7節)

<http://www.bible.or.jp/> (日本聖書協会)

<http://resources.theology.ox.ac.uk/index.phtml>

(Theology at Oxford)

(経済学部教授)

大学図書館とおつきあいの必要性和その仕方

大 山 和 寿

OHYAMA Kazutoshi

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。なかには、やっと受験勉強から解放された、さあ遊ぶぞ、と思っている人もいるでしょう。しかし、それでは卒業する時に後悔することになります。本学では、相模原キャンパスに通学する1・2年生の間にのんびりしてしまう人が多いせいか、卒業生の就職率は決して良くありません。将来のことを考えて、1・2年生の間ものんびりせず、しっかり努力してください。

では、大学での勉強はどうしたらよいのでしょうか。授業を受けてみて、とまどっている人も多いことでしょう。この様にとまどった理由の一つは、大学での学習において前提とされていることが、高校までの勉強での前提とは違うからです。高校までは、正解がありました。教科書に書いてあることは正しいことでした。しかし、大学の学部で皆さんがその初歩を学ぶ学問には、唯一正しい正解などないのです。さらに、法律学の場合には、結論そのものよりも、自分が妥当だと考える結論を他の人に納得してもらうための論拠こそが、重要なのです。

そして、それぞれの考え方について主張されている論拠を考慮して、複数の考え方のうちからある一つの考え方が妥当である、と判断する際に必要だとされているのが、法的なものの考え方、いわゆるリーガルマインドです。で

は、このリーガルマインドを身につけるためにはどうすればよいかというと、基本的な事柄を教科書の通読により学ぶだけでなく、あるテーマについて深く学ぶことも必要です。この深く学ぶ機会が、卒論やレポートの執筆であり、ゼミでの学習なのです。卒論・レポートの執筆やゼミでの報告をするためには、その準備作業として、テーマに関係のある判例や論文等の原典にあたる必要があります。どこでそのようなことができるかということ、それは大学の図書館なのです。

レポートをどのように執筆したらよいかについては、木下是雄著『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫、1994年）を是非お読み下さい。また、法学文献の調べ方については、例えば、弥永真生著『法律学習マニュアル』（有斐閣、2001年）、西野喜一著『法律文献学入門』（成文堂、2002年）等を参照してみてください。さらに、本学の図書館で必要な資料がどこに所蔵

されているかを知るためには、図書館主催の講習会に出席して、職員の方から図書館の使い方を教えてもらうのが早道です。そして、レファレンスの職員の方にも色々和相談してみてください。

図書館と上手につきあうことにより、皆さんの4年間で充実したものとなることを祈念して、このエッセイを終わりたいと思います。

（法学部専任講師 民法）



‘ Culture ’のすすめ

大 道 千 穂

OMICHI Chiho

「青山ブランド」と聞いて、新入生のみなさんはまず何を思い浮かべたでしょうか。一般には「青山」というとまず多くの人の頭に浮かぶのが、「洗練されている」イメージだとか。この「洗練」の習得は、一見簡単なようで実はとても大変です。流行のファッション、流行の髪形、ちょっと気の利いた会話のセンス。こうしたものを身につけていることが洗練であるとしたら、その習得にさして時間はかからないでしょう。けれども本当の洗練とは個人の内面から自然とにじみ出てくるものであり、何かを表面的に真似して身につけられるものではないのです。

『マイ・フェア・レディ』というブロードウェイ・ミュージカルをご存知でしょうか。優秀な音声学者ヒギンズが下層階級の花売り娘イライザに上流階級のアクセント、会話のルール、服装に物腰の訓練を授けて彼女を貴婦人に育て上げ、その過程でふたりの間に愛が芽生えるという、20世紀初頭のロンドンを舞台としたロマンチックなシンデレラ・ストーリーです。けれども実は、『マイ・フェア・レディ』の原作となった『ピグマリオン』（ジョージ・バーナード・ショー作、1913年）の結末は、ミュージカルのそれとは全く異なっています。原作では体得した上流階級風の服装やマナーと、花売りをしていた頃と何ら変わらない自己の内面の間の大きなギャップに苦しむイライザ、ヒギンズに教え込まれたセツフレーズをオウムのように反復することはできても新たな会話を自発的に繰り出すことはできないもどかしさに苦しむイライザがクローズアップされ、自分を操り人形のよ

うに扱ったヒギンズとの結婚を彼女が選ぶこともありません。

『ピグマリオン』の物語はまだまだ続き、イライザはたくましく生き抜いていくので、この戯曲は決して悲劇ではありません。しかしいずれにせよこの物語は示唆的です。その場その場に応じた適切な会話、適切な対応は、にわかトレーニングからは生まれません。植物を栽培する culture/cultivate するような、時間と手間と思考力を要する鍛錬が必要なのです。何気なく臨機応変な気遣いを見せる人は、外面が目を引きほど洗練されたおしゃれな人よりも社会においてははるかに洗練された人間と認識されるものです。

「文化」とも「教養」とも、また「洗練」とも訳される英語の ‘ culture ’ という言葉、まさしくこれが、今みなさんに求められているものではないでしょうか。自由な時間をたくさん持つことができる大学時代にぜひ、多くの良き本、良き音楽、良き美術に触れ、じっくりと観賞し、感性を磨いて下さい。忙しい日常生活だけではなかなか見えてこない人間の心の深い機微への感覚が、徐々に研ぎ澄まされてくると思います。大学は単に講義を受けに行くだけの場所ではなく、講義に助けられながら自分自身の手で洗練 culture を育てる場です。そのように認識したとき、あなたもまた、いつのまにか立派な青山ブランドの継承者になっているでしょう。手始めにまず、多くの良書を備えた大学図書館に足を運んでみてください。

（経営学部専任講師 英文学）

真の 隣国人 の意識を育てるために

PODALKO, Petr E.

日本人にとって、隣国でありながらもあまり知られていない国ロシア。特に現在は、国際社会の中で、注目を集めているロシアの歴史と文化・伝統、さらに現在の経済・政治などを理解し、今後の日露文化交流や日本とロシアとの関係について展望する時期であろう。

ロシアは日本の隣の国なのに、数百年もの間“近くて遠い国”と見なされていた。日露交流の現状は、昔から残っている政治的な問題やさまざまな対抗点にもかかわらず、新たな傾向が生まれつつあり、相互の関心も高まっている。

2005年2月に日露和親条約(国交樹立および通商交流を結ぶ)締結150周年を祝う記念をきっかけに、日ロ交流史の一部を語る書籍のシリーズ(論文集)を紹介したいと思う。

日本の「近代化」は「西欧化」であったとされるが、明治・大正期の日本人の概念ではロシアも当然ヨーロッパに入っていた。しかし、第

二次世界大戦以後、特に20世紀最後の四半期には、日本における白人のイメージはアメリカ人と重なっていたが、今後このような傾向はさらに顕著になるだろう。ちなみに、明治・大正期に進められた日本の近代化ですら欧米化と見なす場合もある。私も含めて今の日本で活躍する西洋諸国出身の外国人(白人)が日常生活でアメリカ人と誤解されるケースは珍しくない。また、在日外国人に関する論文・書籍があれば、それはほとんど19・20世紀の変わり目に来日した韓国人や中国人、あるいはそれらの子孫たちを意味するものばかりである。つまり、「来日する」外国人はアメリカから、「在日暮らし・活躍する」外国人が東洋人、というパターンの意識が一般にあるように思われる。

しかし、かつてこれとは異なる状況があった。とりわけ、1920 - 1940年代の日本で白人といえば、それはイギリスやアメリカの出身ではなく、むしろ白系露人(亡命ロシア人)だったのである。ロシア人はかつて日本でさまざまな名で呼ばれた。江戸時代には「赤蝦夷」、明治期には「オロシヤ人」、大正期には「白系ロシア人」が登場した。日本における亡命ロシア人(混血児も含む)のなかでも有名な人物には、速球王として名を馳せた野球選手のスタルヒン(須田博)、2004年11月に勲章を受けた大相撲の大横綱大鵬、宝塚歌劇団をはじめ、芸術の各分野において活躍した音楽家たち、さらに日本ではじめて高級なチョコレートを紹介したモロゾフとゴンチャロフのような名前が挙げられる。ロシア人が日本に居留する外国人の最大グループを占めたことが、一時的にせよ、かつてあったのである。彼らの多くには日本がまるで第二のクニになり、「異郷」でありなが



ら「故郷」になったという。

ここで旧ロシア帝国の代理大使アプリコソフが晩年に書いた回想録を引用すれば、「日本が白系ロシア人のために世話好きな義母になった」という。この日本の各地に散らばった白系ロシア人については、成文社の出版物で次の2冊がある。長縄光男・沢田和彦編『異郷に生きる—来日ロシア人の足跡』(成文社、2001年) 中村喜和・長縄光男・長與進編『異郷に生きる—来日ロシア人の足跡』(成文社、2003年)で、近い将来には第3巻(『異郷に生きる—』になるだろう)の出版も予定されている。

このシリーズの登場は、日本とロシアの文化交流の歴史、特に人間関係・人物交流の歴史などへの関心にある。数百年の関係の歴史を有する両国が実際の相互理解に至る道は、人と人のかかわりの歴史によってこそ開かれるという考えがある。しかし、さまざまな理由によって、ロシア革命後に日本に移り住んだロシア人ならびに他の帝政ロシア出身たちの消息については最近までほとんど知られないままであった。結局、この2冊に掲載した論文は、これらのロシア人が文学や芸術のみならず、日常生活の面においても日本にいかなる足跡をとどめたかを調査する。とりわけ、著者たちは日本人とロシア人であり、それらの大部分は日本各地の大学の先生方・研究員ならびに亡命ロシア人の子孫である。日本人にとっては、ロシア文化への敬愛の念であり、ロシア人にとっては日本文化への敬愛の念である。もちろん、ここで収録されている論文はいずれもオリジナルな資料に基づいて書かれている。

この研究資料のなかには、来日したロシア人によって書かれたものがある。白系ロシア人が書いた回想録・自伝を読めば、それは日本に住んだ亡命者の偽らざる告白であり、在外生活を行う者の物語であることがわかる。それは、文化、歴史、文学的視点から見て、20世紀の日本に関する資料として大いに価値がある。そして、未来の日露交流の発展のために、しばらく



日本で生活を送った白系ロシア人の経験は貴重なものである。

近代化の過程において日本はロシアを含む他国から多くのものを摂取したが、来日ロシア人の経験、彼らと日本人との関係、そして日本人による彼らの社会的受容などは非常に興味深い問題を提供してくれる。彼らの日本人の同僚や弟子による証言を通して、われわれは当時の日本人とロシア人の考え方、行動に関するさまざまな特徴について知ることが出来る。また、「国際化」という新しい情勢に身を置く彼らの、異国での生活の在り方を解明することは決して無意味ではないだろう。日本に在住したロシア人は自覚していなかったとはいえ、日本とロシアを文化的に近づける優れた活動家として、あらゆる素質を備えていた。ロシアに生まれ、日本または第三国で死んだ彼らの活動は日本とロシアをより強く結んできたとも言える。今後両国の改善に思いを馳せ、この『異郷に生きる—来日ロシア人の足跡』の二冊の本を薦めます。

(国際政治経済学部助教授 国際コミュニケーション)

データベースを活用する

内 山 義 英

UCHIYAMA Yoshihide

情報が氾濫する社会において、限られた時間で有用な情報だけを集めて加工し、そして自分の智恵としていくことは、誰にとっても難しい問題であろう。大学で学ぶとき、この問題を実感するのが論文やレポートの作成時である。レポートでは与えられた課題に対して如何に答えていくか、また論文では、レポートと違ってテーマ探しから始まる。

論文やレポート作成の際、有用なツールとして図書館はデータベースを備えている。しかし、このデータベースを上手く活用するというのは、まさに「言うは易く、行うは難し」である。データの宝庫といえるインターネットも、使い方によっては時間の浪費でしかないことも十分ありえる。

私には過去に苦い経験がある。お世話になっている方の奥様は某社のチョコレートケーキがとても好きだと聞いていたので、どこに行けばそのチョコレートケーキが買えるのか、検索エンジンで調べたときのことである。「某社のチョコレートケーキ」とキーワードを入力して検索ボタンをクリックしたら、しばらくして検索結果が出てきた。ところが、結果のリストは

何と8万件を超えていた。いくつかのホームページを実際に開いてみたが、そのほとんどは個人が作成したもので、「好きなもの」という欄にそのチョコレートケーキを挙げていたのである。これでは時間の無駄だ、と罵りながら私はホームページから探すのをあきらめた。

この失敗を事務室の女性に話したら、「先生、そのチョコレートケーキなら私がパンフレットを持っていますよ。」私が直面した問題は1分とかならずに解決したのである。インターネットから得られる情報は膨大な量ではあるが、いってみれば整備されていないデータベースと同じである。私はその使い方を知らなかったために、本当に知りたい情報に辿り着けなかったのである。

その点、図書館で利用できるデータベースはコストをかけて整備されているため、基本的な使い方をマスターすれば貴重な情報源となる。在学中ならすべて利用できるし、さらにオンラインデータベースなら自宅からでも利用できる。講義やゼミの中でレポートや論文が課せられたときは、図書館のデータベースを是非活用して欲しい。データベースを利用するための講習会も開かれている。

最初は時間ばかりかかって、使いこなすどころか時間の浪費で終わってしまうかもしれない。しかし、その経験がいざというときに役立ってくれるであろう。また、図書館のデータベースは年々変化(充実)してきており、以前に使えたから大丈夫、ということもない。とにかく、たとえどれか一つのデータベースでも良いと思う。在学中にこのデータベースなら使いこなす自信がある、と呼べるものを作って欲しい。

(国際政治経済学部助教授)



真理はあなたがたを自由にする

大 島 力

OSHIMA Chikara

日本の図書館で一番大きく、また誰でも利用できるのは、国立国会図書館です。その目録ホールの上には次のような言葉が記されています。「真理がわれらを自由にする」

この言葉は、人間が知を蓄積し、それが人類の生の営みに本当の自由をもたらすことへの期待を言い表しています。1948年の設立当初の基本理念がここに示されています。

この言葉は実は、新約聖書のヨハネ福音書の8章32節から採られたものです。そして、その右には新約聖書の原典であるギリシャ語がそのまま書かれています。その本来の言葉は「真理はあなたがたを自由にする」という意味です。イエス・キリストが自分を信じる者たちに語った言葉であるとされています。

このことの意義は大きいと私は思います。国立の最も中心的な図書館にイエスの言葉が掲げられているのです。そ

れを意識的に受け止めている人は多くはないでしょう。しかし、「真理の探究」という学問の精神と、「イエスの言葉」が結び付けられて理解されていることは重要なことであると思います。

とりわけ、皆さんが入学された青山学院大学はキリスト教の精神に基づいた学び舎です。ですから、「真理の探究」の姿勢が基本的にはキリスト教精神によって養われ、促されているということを大切に考えています。学問研究と信仰、科学的認識とキリスト教といった一見矛盾すると思われることが、歴史的にもまた事柄としても深く結びついていることを、冒頭の「真理がわれらを自由にする」という言葉は示唆し

ているように思います。

フランスの天才的な科学者にブレーズ・パスカルという人がいました。「パスカルの三角形」で有名であり、また圧力の研究で優れた業績を残した学者です。ですから、私たちは毎日のようにその名前がつけられた「ヘクトパスカル」という圧力の単位を気象情報で聞いています。しかし、そのパスカルは同時に深いキリスト教信仰をもった哲学者でもありました。そして『パンセ』という書物の中で、人間にとって必要なものは「幾何学の精神」と「繊細の心」であると言っています。

「幾何学の精神」とは物事を分析する科学的精神の代表です。それに対して「繊細の心」とは物事の全体を一気に把握する精神の力です。この二つが相俟って、私たちは「真理」を見出すことができるのではないのでしょうか。

「こうして、すべての幾何学者は、よい目を持っておりさえすれば、繊細な人になれるだろう。かれらは、自分たちのよく知っている原理にもとづいて推論をするとき、あやまらないからである。また、繊細な心の人々は、慣れない幾何学の原理の方へ目を向けることができさえすれば、幾何学者になれるだろう」(『パンセ』から)

図書館の積極的な利用をはじめ、本学の様々な知的営みが、皆さんにとって「幾何学の精神」と「繊細の心」を養う貴重な機会となるように願います。

(理工学部教授・大学宗教主任)



利用できるのは、書架に並んでいる図書だけではありません。

相模原と青山（本館・短大）を合わせた本学の蔵書はおよそ180万冊です。相模原キャンパスにいる1、2年生でも青山キャンパスの大学図書館本館や女子短期大学図書館の資料を利用することができます。さらに、図書館が窓口となれば他大学図書館の図書や雑誌、海外の図書館資料まで利用できるのです。

蔵書はOPAC(オンライン蔵書目録)で調べられます。

蔵書はOPAC(オンライン蔵書目録)で調べられます。OPACを使うと大学や短大で所蔵している図書や雑誌を同時に調べることができます。OPACは図書館のホームページ(<http://agulin.aoyama.ac.jp>)からアクセスできるので、学外からでも検索できます。また、携帯電話からも利用できるのです。自宅にパソコンがなくても調べられます。(<http://mobile.agulin.aoyama.ac.jp/mopac/>)

青山本館や短大図書館の本も相模原キャンパスの図書館で借りることができます。

青山本館や短大図書館にある本は、相模原キャンパス図書館のカウンターに申し込むと取り寄せでき、翌日の午後には届きます。

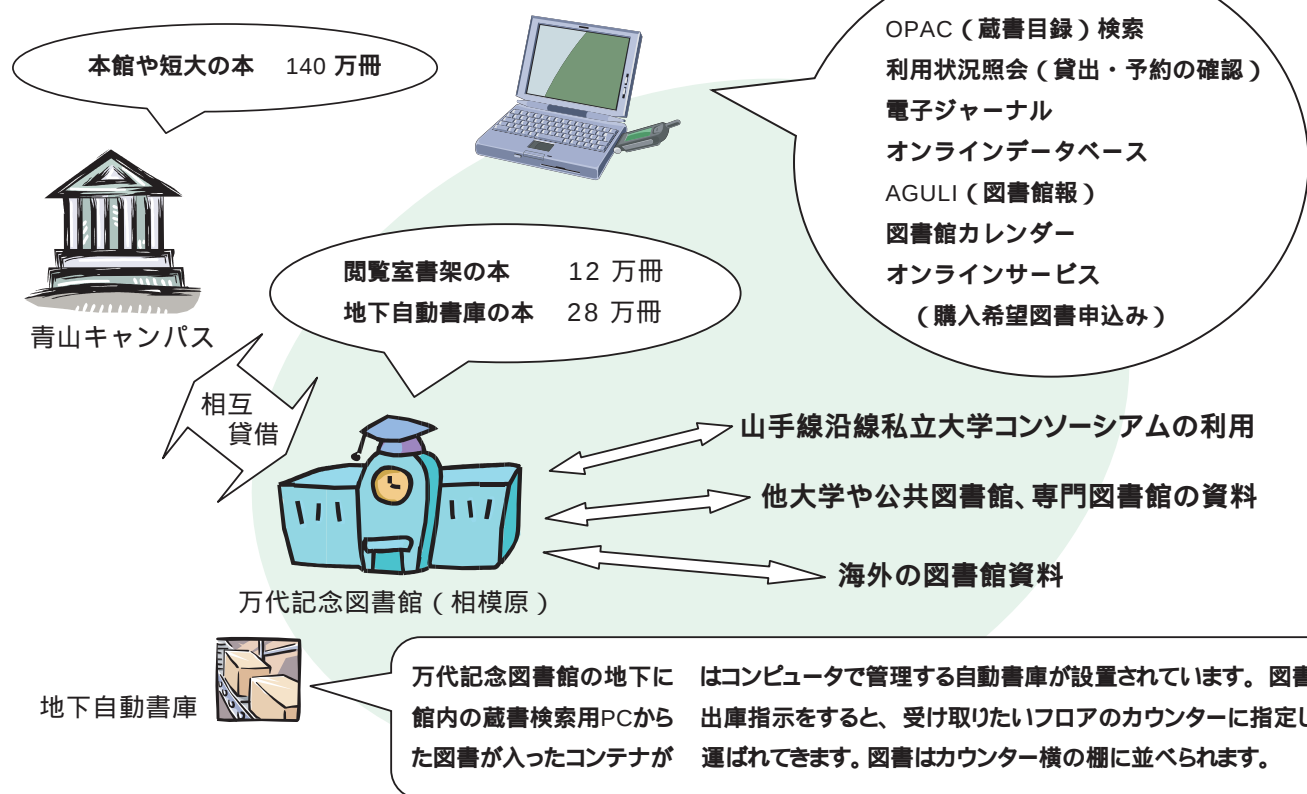
利用できるのは青山学院の図書館だけではありません。

「山手線沿線私立大学コンソーシアム」の協定を結んでいる学習院大学、國學院大學、東洋大学、法政大学、明治大学、明治学院大学、立教大学の図書館は、青山学院大学の学生証を提示すれば入館できます。また、利用カードを申請すれば図書を借りることもできますので、本学の図書館にないときは協定校のOPACを検索してみてください。

万代記念図書館レファレンスカウンターより ～ 初めて図書館を利用する方へ ～

大学図書館は、皆さんが知っている学校図書館や公学習の場を提供し、授業や教養を身につけるためにはありません。図書館は皆さんの学習に役立つさまざまなサービスを提供しています。それらのサービスを利用し、図書館を最大限に活用してください。

共図書館とはちょっと違います。必要な図書や雑誌をそろえ、貸し出しているだけでなく、さまざまなサービスを提供しています。それらのサービス



図書館ホームページには他にもいろいろな機能があります。

図書館が提供しているのは図書や雑誌だけではなく、電子図書館としての機能が利用できます。新聞記事や雑誌記事が読めます。自宅などキャンパス外からでも利用できます。オンラインサービスを利用すれば、図書館で購入してほしい本の申込みができます。図書館カレンダーや最新 News をお知らせしています。

ビデオやDVDは3階の視聴覚資料閲覧コーナーで視聴できます。

3階視聴覚資料架には、話題の韓国ドラマなどのDVDなども並んでいます。棚に並んでいるCD・DVD・ビデオは自由に視聴できますが、地下自動書庫にあるビジュアル資料は教員の許諾がないと視聴できません。

授業に関連する図書は「指定図書」になっています。

指定図書(リザーブブック)は、授業に関連する必読書が教員別に並べられたコーナーです。授業のときに「指定図書」と紹介された資料は図書館1階、カウンター横の指定図書架に並んでいます。貸し出しはできません。

グループで勉強できます。

万代記念図書館3階には6人から12人のグループで利用できる部屋が3室あります。ここは予約制で1週間前から予約でき、当日でも空いていれば利用できます。2階には共同学習エリアと呼ぶグループで学習できる広い部屋もあり、席が空いていれば自由に利用できます。

レファレンスカウンターを大いに活用してください。

レファレンスカウンターでは皆さんが図書館を効率よく利用できるように、いろいろなお手伝いをしています。

こんなときには気兼ねなく、レファレンスカウンターに相談してください。

資料の探し方、使い方を教えてほしい。
OPACの操作方法がわからない。
オンラインデータベース検索を利用したいが、方法がわからない。
探している資料がこの図書館にない。
レポートを書くための文献がなかなか見つからない。

(万代記念図書館参考業務担当)

図書館紹介

本 館（青山キャンパス）



青山キャンパス正門からまっすぐ銀杏並木を進んで行くとロータリーの右手前方に大学図書館本館があります。1977年創立100周年記念事業により建設され、築28年、面積7,509m²、蔵書冊数約115万冊、地上3階・地下1階のこの図書館には、1日あたり約1,500人、定期試験期ともなると約4,000人が訪れます。また、1年間に受け入れる図書は約3万冊。各階は開架式で、自由に閲覧でき、閲覧席は769席を備えています。

1階入口は自動入館システムになっており、学生証で入館ゲートが開きます。月～土曜日は朝9時に開館しますが、1階以外は9時半からの利用となります。入口を入ってすぐ右側に資料展示ケースを設置しています。貴重な資料等を展示してありますので、是非ご覧ください。では各階をご案内します。1階には参考図書（辞書や事典等）・新着図書・新着雑誌・指定図書・新聞等が配架されています。2・3階は一般図書架と閲覧席です。2階には社会科学と自然科学系、3階には人文科学系の和書が請求記号（図書の背ラベル）順に配架されています。地下は洋書・和洋雑誌のバックナンバー・OECD出版物・判例集・本学及び他大学の紀要・新聞の縮刷版等があります。新聞は朝日・読売・毎

日・日本経済であれば、マイクロフィルムで創号から見ることができます。

次に館内の施設ですが、1階にある「情報検索コーナー」では、OPAC（本学図書館オンライン目録）による蔵書検索（青山・相模原・短大）やオンライン・CD-ROMデータベースが利用できます。「マルチメディア室」では各自持参したノートパソコンで大学のサーバーに接続し、インターネットの利用が可能です。またCNN放送をイヤホン持参で視聴できます。「新聞閲覧室」では国内および海外の新聞などを読むことができ、リサイクルブックコーナーも常設しています。3階には3～25名で勉強できるグループ閲覧室が2部屋と電卓・ノートパソコン等を使用する（音が出る）場合の専用閲覧席があります。

その他、文献・資料の探し方、OPACの使い方等わからない時は、1階レファレンスカウンターにご相談ください。利用案内、資料検索、所蔵調査、データベース検索指導等の多角的なサービスを行なっています（日曜日を除く）。また、図書館に所蔵していない図書の購入希望も受け付けています。

女子短期大学図書館も学生証により入館、閲覧、貸出ができます（短大生と同じ条件）。尚、本館は山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム（学習院・國學院・東洋・法政・明治・明治学院・立教大学）に加盟しています。利用の詳細は各大学により異なりますので、ホームページで確認し、上手に活用してください。

図書館にはまだまだ便利な機能があります。みなさんの学生生活が充実したものになるよう、お手伝いしたいと願っています。

（広報タスク）

万代記念図書館（相模原キャンパス）

正門を入りケヤキ並木を通り抜けると、キャンパスのほぼ中央にB棟があります。正面から見て右側の1階から3階が万代記念図書館です。2003年4月、厚木キャンパスと世田谷キャンパスが統合し、相模原キャンパスが開学しました。相模原キャンパスの図書館は校友であり財務理事として戦後の青山学院財政の礎を築いた万代順四郎先生の寄付により建てられた厚木キャンパス万代記念図書館の名を継承しました。閲覧席数990席、蔵書冊数約40万冊。授業のある時期は1日2,500人ほどの入館者があり、試験期ともなれば4,000人前後の学生が利用しています。

図書館へは1階と3階から入館でき、入館ゲートに学生証（ICカード）をかざすとゲートが開きます。入り口正面、図書館中央は3階までの吹き抜けになっており、2階、3階に続く階段があります。

1階には、新着図書、新着雑誌、新聞、指定図書、文学と社会科学分野の図書があります。入り口から見て右手、正門側の閲覧席からは大きな窓の向こうに、チャペル周りの青々とした芝生が一望できます。カウンターは各階にあり、1階カウンターでは、図書の貸出返却、予約ができます。

2階には、参考図書および哲学、歴史、芸術、自然科学、工学分野の図書があります。せせらぎを見下ろす窓辺に面したフロアには好きなときにグループで学習できる「共同学習エリア」と静かに勉強できる様、キャレル風閲覧席になった「書斎エリア」が設けられています。

2階、3階にはレファレンスカウンターがあります。資料が見つからないときや調べたいことがあるときに、開館から閉館まで専門のスタッフが、気軽に相談に応じています。また、2階のカウンター側の閲覧席には情報コンセントが付いており、自分のノートパソコンを接続し自由にインターネットを利用できます。



3階には、学術雑誌、言語分野の図書、視聴覚資料があります。書架に並んでいるDVDやビデオ、CDは同じフロアにある視聴覚資料閲覧コーナーで視聴できます。目の前にチャペルが見える3階フロアの一角は、窓に向いて横長の閲覧机が並んでおり、どの席からもチャペルが望めます。このフロアには予約制のグループ学習室が3室あり、全部屋に情報コンセントが付いています。

各階には情報検索コーナーが設けられ、青山、相模原、短大の蔵書が検索できるOPACやインターネットで様々なデータベースが利用できます。インターネットの検索結果はプリントステーションから印刷することもできます。

図書館の地下には、コンピュータ制御の自動書庫があり、OPAC（オンライン目録）で本の所蔵を検索し、出庫指示をすると本が各階のカウンターに運ばれてきます。このように地下に効率良く本を収納することで、ゆったりとした学習環境が実現できました。

大学図書館は本と学習スペースを提供するだけではありません。図書館のホームページ上では様々なデータベースを公開し、カウンターでは専門スタッフが資料探しのお手伝いをしています。図書館に通い、図書館を有効に活用してください。

（万代記念図書館図書グループ）

万代記念図書館長（相模原分館長）人事のお知らせ

3月31日付で任期満了となる万代記念図書館長に、三嶋輝夫文学部教授が再任されました。
（任期：2005年4月1日～2007年3月31日）

今期は、カスタマイズを推進し、学生・教職員がより
利用しやすい図書館を目指したいと思いますので、皆さ
んのご協力を宜しくお願いします。 三嶋輝夫

オリエンテーションへのお願い

大学図書館では、図書館を利用する際に役立つ各種のオリエンテーションを企画してい
ます。日時、時間、内容はさまざまに設定していますので、是非ご参加ください。

詳しくは図書館ホームページ、各キャンパスポスター・ちらしをご覧ください。また、
学生情報端末でもお知らせしています。

百科全書 (Encyclopédie, ou Dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des metiers,
par une societe de gens de lettres / mis en ordre & publie par M. Diderot ; et quant a la
partie Mathemaitque par M.D'Alembert. Paris : Briasson, 1751-1780)を公開しています。

大学図書館では昨年の秋より、所蔵し
ている貴重資料を1階の展示ケースで順
次公開しています。

3月から5月は「百科全書」の初版で
す。ディドロとダランベールの監修のも
と発行された本書は、フランス革命の思
想的準備となった18世紀フランス啓蒙思
想の集大成です。副題は「科学、芸術、技
術に関する合理的な事典」という意味で
す。184名の執筆者の身分はさまざまで、

職業も大学人はもとより、職人、探検家、
高級官吏、僧職、詩人など多岐にわたって
います。本巻17巻（収録項目およそ60,600）
補巻5巻、図版11巻、索引2巻から成り立
つ膨大な資料の中のごく一部を、どうぞ
ごらんください。（本館受入係）

参考文献

植田祐次 “ 啓蒙の世紀の壮大な記念碑：フランス
啓蒙期最重要資料—18世紀百科全書 ”
AGULI 62号 (July 1, 2003) p.10-11

世界名著大事典 平凡社

編集後記



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。「AGULI」は、図書館が年4回、
発行するニュースレターです。きっと皆さんに興味を持っていただける記事が
満載だと思います。ぜひご愛読ください。（図書館報編集委員長 野末 俊比古）

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院大学図書館報 “ AGULI ” 第69号 2005年4月1日発行

編 集 青山学院大学図書館報編集委員会・大学図書館広報担当

発 行 青山学院大学図書館 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25 TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472